



2013年新年を迎えるにあたって

医療法人パリアン理事長 川越 厚



新たな年を迎えるにあたり、

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年11月時点では「やれやれ、平穏無事のよい年だった。来年こそは落ち着いた挨拶ができる」と喜んでいたのですが、その直後にゴルフ場で滑って転んで右足の関節部分を骨折し、その後2ヶ月近く不自由な生活を余儀なくされました。「何も無い年など僕にはありえないのだ」、と妙に納得した次第です。

入院中は車椅子の鬼と化し、「めざせパラリンピック」のキャッチフレーズを掲げて気合を入れ、リハビリに励みました。おかげで、看

護師さんからは“車椅子の厚”と呼ばれるほどになりました。それでもホスピス医としては、在宅の患者さんに迷惑がかかる事を一番心配しましたが、幸い昨年10月から副院長を引き受けてくれている中島先生が僕の抜けた穴をしっかりと補ってくれました。患者さんに直接迷惑をかける事態にはならず、めでたしめでたし。相変わらず悪運だけは強いようです。

それはさておき、パリアンにとって2012年は大変なBig Yearでした。

時は霜月、ハワイからの客人Kenが素晴らしいプレゼントを携えて東京に現れたのです。プレゼントの内容は、「パリアンが日本で始めてNHPCO(National Hospice Palliative Care Organization; 全米ホスピス緩和ケア協会)の会員に選ばれた」というサプライズでした。

Kenはパリアンの姉妹ホスピスであるHospice HawaiiのCEO(最高経営責任者)ですが、彼はこの10月にNHPCOの理事(総勢25名の一人)に選ばれました。その辺はよく知っていたのですが、どうやらパリアンのことを熟知している彼が強力に推薦してくれたようです。いずれにしろ会員認定が非常に厳しいNHPCOと伺っていたので、彼がこのニュースを僕たちの前で披露してくれた時は、最初は何のことかわからないくらい驚きました。

米国は日本と違ってホスピスの施設基準が大変厳しく(例えば、ホスピスにボランティア組織があり、その働きが常勤換算で一定の基準以上であることや一定のケアの質が担保されているなど)、その基準に一応照らしての会員認定ですから、我々が選ばれたことは非常に名誉なことです。パリアンはPalliumの名称で会員登録されています。

期せずして、新しい年はNHPCOの会員としてパリアンが世界に羽ばたく年となりました。日本のホスピスの代表として恥ずかしくない哲学とケアプログラムを保ち続け、これからも質の高いケアを提供していきたいと考えています。

NHPCO Membership
Pallium Hospice
Dr. Koh Kawagoe

Visit www.nhpc.org



“ONLY ONE CHANCE”

パリアン看護師講習会でゼン・ケリー氏が講演

ホスピスハワイ代表のケン・ゼリー氏は、2012年11月26日(月)午後にはパリアンの訪問看護に同行し、夕方にはパリアン看護師のために講習会で講演して下さった。この講習会には、看護師、医師やボランティアほか20人が出席した。

患者さんやその家族のことを医師、看護師、ケアマネ、ヘルパー、ボランティアなどそれぞれの立場で互いが話し合っ、理解し合う INTERDISCIPLINARY (インターディシプリナリー: 種々の学問分野からの発想を一に議論すること、多職種) のこと、訪問に行ったときに患者さんがケアが必要だったら、専門外だとしてもその人が持っているスキルの範囲内のことを行う TRANSDISCIPLINARY (トランスディシプリナリー) のこと、そしてチームについて1時間講義された。



多職種の人達がお互いの役割を理解することにより、チームとしてみんなでサポートしていける。また、自分でできる時はやり、できない時はできる人に代わってもらうことは、その人が患者やその家族に対して責任を果たしたことになるという。

「特に「**ONLY ONE CHANCE**」は、最重要である。患者と家族にとって、毎日が最高の1日にならなければいけない。それが、たった1日のチャンスだから、我々は責任をもって最高のサービスを提供することを忘れないでほしい」と講義を締めくくった。

ゼリーさん夫妻の「さよならパーティー」

11月21日から27日までの1週間、緩和ケア訪問看護ステーション連絡会の講演会やパリアン看護師の講義のために来日して下さったケン・ゼリーさん、ローレルさん夫妻に感謝の気持ちを込めて、「さよならパーティー」が11月26日夜、パリアンの近所の中華料理店で行われた。



日光・鬼怒川旅行の話、講演会の話などで盛り上がり、翌27日に無事ハワイに到着したが、お腹の調子に異常があった模様。

デイホスピス「クリスマス会」12月21日に行う

12月21日(金)のデイホスピスは、患者さん、家族6名、全部で16名で「クリスマス会」をおこないました。ボランティアの料理や手作りケーキを食べながら話がとても弾み、用意しておいた賛美歌を忘れるほどアツという間に時間が過ぎた楽しい会でした。



訪問ボランティア

～ 2 人の 思い ～

あんなこと こんなこと

とてもきれいな部屋だった。

A子さんはすごくきれい好きで、お花が大好き。広くはないその部屋はきちんと片づけられて、いつも違う花がきれいに飾られていた。ワタシたちの会話は、私にはほとんど分からないその花の名前から始まるが多かった。静かにお話をしたり、一緒にテレビを見たりしてすごした。

そんなA子さんはいつもご主人の事を気にしていた。私が訪問する時は、ご主人はお出かけ中。「まだ帰ってこないわ」と言ったり、電話を気にしたり。

ある時、玄関チャイムが鳴った。私は帰宅されたご主人と初対面。私の立場を知り安心されたのか、座り込んでからのご主人の話が長かった。

ずっとそばにいてほしいと思うA子さん、

ずっとそばにすることに、ちょっと疲れてしまうご主人
おふたりの気持ちに思いをはせながら、ただ聞き役の私だった。

☆K・Y☆



「忘れない！」を大切に過ごしたい

チョット古い話になるが、東京駅の駅舎の復原工事が去年10月完成し、震災で失われていた壮麗なドーム屋根や3階部分が完全復原され、創建当時の威風堂々たる姿が甦った。

壮麗な赤レンガの東京駅は1914年（大正3年）に開業し、あと1年で100年を迎える。設計を手掛けたのは、日本建築界の重鎮であった建築家・辰野金吾。その姿は「横綱が皇居に向かい、大きく手を広げて土俵入りしている姿」と評される。関東大震災ではほとんど被害はなかったものの、東京大空襲でドームの屋根は大破し外壁を残してことごとく焼失してしまった。昭和22年にドームが八角屋根になるなど完全修復はできなかったが、平成19年から「東京駅が街になる」と題したプロジェクトにより赤レンガ駅舎の保存・復原工事が実施され、この程完成した。その屋根瓦には東日本大震災の被災地の「軌跡の瓦」が使われたことは知られている。



宮城県石巻市雄勝町で作られた出荷目の6万5千枚の瓦は全部が流され、全滅とされていたが、4万5千枚は奇跡的に回収でき、東京駅の南北のドームの屋根に使われた。

「この石も東京のド真ん中で津波の恐怖を皆に知らせるんじゃないかと思います」「使っていただけるのであれば、こういうの（津波）を忘れられないでいられるかなって」と瓦業者の方が瓦への思いを述べている。

去年の天皇誕生日の天皇陛下のご挨拶の中で「被災者のことを思いつつ……」のお言葉があった。また、惜しまれながら暮れに亡くなった中村勘三郎さんの長男・勘九郎さんが襲名披露の口上で「父のことを忘れないで……」を聞いた。そして、メモルの集いの出席者や命日カードの返事をいただいた遺族の方々からも故人を忘れないパリアンをととても感謝しておられた。辛かったことや淋しかったこと、悲しかったことを時が経つにつれ薄れていくことはあっても、被災者や遺族に心をよせて、“忘れない”を大切にこれからを過ごしていきたい。（江口）

在宅ホスピスボランティア講座受講生募集



私たちと一緒に活動しませんか？



ボランティアグループパリアンは、最期のときをご自宅で過ごしたいと願う末期がん患者さんや家族の暮らしを、パリアンのスタッフと共にチームで支えます。在宅ホスピスケアのボランティアとはどういうものなのかを広く知っていただき、パリアンでボランティアとして一緒に活動しませんか？

《パリアンの活動についてはホームページやブログをご覧ください。 [パリアン](#) [検索](#) [クリック](#)》

■対象 **在宅ホスピスケアに興味があり、
ボランティア活動を希望する方**

■日時 **平成25年2月2日(土) 10:00~16:00**

■会場 **医療法人社団パリアン**

(東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国ビル 4階)

■講座概要 **1 在宅ホスピスケア概論
2 パリアンの在宅ホスピスケアについて
3 チームケアとパリアンボランティアの活動紹介**

■募集人員 **10人(先着順で定員になり次第、締切ります)**
《応募いただいた方には事務局からご連絡いたします》

■受講料 **500円(資料・昼食代として)**

■申込締切日 **平成25年1月26日(土)【当日分まで有効】**

■申込方法 **氏名、性別、年齢、住所、連絡先を記入の上、下記
申込先にFAXまたはメールにてお申込みください。**

■申込先・問合せ先 **医療法人社団パリアン ボランティア講座事務局**
FAX:03-5669-8310/TEL:03-5669-8302
e-mail:volunteer@pallium.co.jp



伝言板

第3回メモルの集い、1月12日開催します

ご遺族の思いを十分に語っていただき、参加者がその言葉に耳を傾けるという趣旨で開かれるメモルの集い第3回が1月12日(土)午後1時30分からパリアン9階で開催されます。集いの模様は次号で紹介します。

ボランティアの集いは、1月19日午前10時30分から

ボランティアの集いは、1月19日(土)午前10時30分から12時まで開催されます。出席できる方は、ボランティアコーディネーターに連絡してください。

在宅ホスピスボランティア講座にお手伝いをお願いします

今年度の在宅ホスピスボランティア講座は、2月2日(土)に開催に向けて募集ポスターを配布し、準備は着々と進んでいます。開催当日の受付、会場設営、昼食準備などのお手伝いして下さる方を募集します。ご協力いただける方は、ボランティアコーディネーターにご連絡願います。また、ボランティア講座に推薦したい方の紹介や4ページの募集ポスターの貼付もよろしくお願い致します。

1月のボランティア活動予定

- ・第3回メモルの集い：1月12日(土)午後1時30分～
- ・ボランティアの集い：1月19日(土)午前10時30分～
- ・訪問ボランティア：1月19日(土)午後1時～
- ・デイホスピスボランティア：1月11日、18日、25日
- ・手作りボランティア：1月22日(火)午後1時～3時
- ・事務ボランティア：1月19日(土)午後1時～



事務ボランティアの四方山ばなし

新年あけましておめでとうございます。

さて、既に知らせしましたように、在宅ホスピスボランティア講座が2月2日に開催されます。現在事務ボランティアは、講座の開催に向けて色々な準備を行っています。

2012年最後の事務ボランティアミーティングでは、講座のパンフレットの形式や配布方法について検討しました。みんな「志を共にする仲間を増やすためには、パンフレットをどこに配布するのが効果的か」



「どんな方法で情報を発信すればパリアンに興味を持つ方へ情報が届くだろうか」などについて知恵を出し合いました。結果、35か所以上の組織にパンフレットを郵送もしくは持参することになりました。

事務ボランティアの私たちは、患者さまやご家族さまに直接お会いする機会はありません。しかし、いつも患者さまが自宅で穏やかな生活を過ごすことができることを願いながら活動をしています。これからも活動を陰ながら支える、縁の下の力持ちとして励んでいきます。

本年も事務ボランティアそしてパリアン通信をよろしくお願い致します。(N. K)